

## 序に代えて：謙虚さと自利利他

|     |   |
|-----|---|
| 雑誌名 | 真実心   |
| 号   | 37  |
| ページ | 1-3   |
| 発行年 | 2016-03-10  |
| URL | <a href="http://id.nii.ac.jp/1108/00000770/">http://id.nii.ac.jp/1108/00000770/</a> |

序に代えて

## 謙虚さと自利利他

一 郷 正 道

昨年のノーベル医学生理学賞に大村智先生が選ばれ日本は喜びに沸いたことでした。その記者会見での先生の御発言の中に感銘したことが二点ありました。

一つは、記者たちが、たいへんな努力の結果、このような榮譽に繋がったのでしょねとのニュアンスの質問をしたのに対して、先生は「微生物がすべてやってくれたので私はそれを整理するだけでした」とだけ回答されたのでした。この謙虚さには完全に脱帽せざるをえませんでした。正に、実れば実るほど頭を垂れる稲穂かな、の故事を実感したことでした。

二つ目は、祖母から「何か仕事をするのなら人のためになることをしなさい」と言われ

て育てられた、とのこと。わたしたちは、お互い、大なり小なり何か世の中のために役立つことをして生涯を終えたいとは思っていると思います。大村先生の場合、それを幼児の時から祖母に言われてきたことを現実のものとした点に味わいのあるお話しになっていました。これは、戦前の家族関係を彷彿させてくれますし、仏教でいう自利利他にはかなりません。

この二つの発言内容に（大村先生は意識しておられるかどうか不明ですが）、私は仏教の教えがしっかり生きていることを感じたのです。

私達は、なぜ、また、どうしたら謙虚になり、自利利他の行動がとれるのでしょうか。それは、私達の存在そのものが、私一人の努力や行動で成り立っているものではないことに気付くことからです。私達は、眼に見えるもののみならず目に見えないものを含むすべてのものとの関係の中にしか時間的に空間的に存在しえないからです。換言すれば、すべてのものが、私一人の命を活かそうとして働いていてくれるからです。それは、眼に見えない働きです。働きは、眼に見えないものでありますが、「有る」のです。ですから、そういう働き、存在を自覚すれば謙虚にならざるをえないのです。

すべてのものによって生かされているという点で、私も貴方も同じです。自他平等なの

謙虚さと自利利他

です。自他平等において、他者へのおもいやりの心が自然に生じてくるのです。相手の立場に立って考え、行動するのが、本当の思いやりでしょう。そこには見返りを期待する余地は微塵もあつてはならないのです。相手の苦悩を自分の苦悩として受け止め、相手の喜びを自分の喜びとして頷ち合える関係がなりたつのです。そこには、自分のためと思つてやっていたことが、自ずと他人のためになっているのだと思います。

大村先生のご発言に触発され今年も仏教の教えに照らして生かさせて頂きたく思います。